



平成27年11月25日

各 位

会 社 名 関東電化工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 長谷川淳一
(コード番号 4047 東証第1部)
問合せ先 執行役員人事総務部長 浦本邦彦
(TEL. 03 - 3257 - 0371)


平成28年3月期 第2四半期決算説明会資料

当社では、本日11月25日、機関投資家・証券アナリスト向けに平成28年3月期 第2四半期決算説明会を開催いたします。

平成28年3月期 第2四半期決算の概要、今後の業績見通しについて説明いたしますが、その資料を添付いたします。

以 上

平成28年3月期 第2四半期決算説明会

 関東電化工業株式会社
平成27年11月25日

1

説明内容

1. H28/3月期 第2四半期決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向

※増減率を除き、表示単位未満は切り捨てて表示

事業セグメント

名 称		内 容
基礎化学 品事業	無機製品	か性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、塩化アルミニウム等
	有機製品	トリクロールエチレン、パークロールエチレン、塩化ビニリデン、シクロヘキサノール等
精密化学 品事業	フッ素系 製品	六フッ化硫黄、四フッ化炭素、三フッ化メタン、六フッ化エタン、三フッ化窒素、ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン、八フッ化プロパン、六フッ化タンゲストン、四フッ化ケイ素、三フッ化塩素、八フッ化シクロブタン、五フッ化ヨウ素、モノフルオロメタン、硫化カルボニル、六フッ化リン酸リチウム等
鉄系事業	鉄系製品	キャリアー、マグネタイト、顔料、鉄酸化物等
商事事業	関電興産(株)	化学工業薬品の販売および容器整備、保険代理店業務等
設備事業	(株)上備製作所	工場プラント建設、工場設備保全工事等

関東電化工業株式会社

3

関東電化グループ(連結子会社)

(単位:百万円)

	資本金	出資 比率%	H27/9 個別売上高	対前年同期 増減	主要な事業内容
関電興産(株)	10	100.0	3,008	266	化学工業薬品の販売および容器整備、保険代理店
(株)上備製作所	120	49.4	1,488	6	化学工業用設備の製作・加工・修理
森下弁柄工業(株)	27	52.9	372	△98	鉄酸化物の製造販売
関東電化KOREA (株)	2 億ウオン	90.0	4,355	994	フッ素系製品の販売
台湾関東電化股份 有限公司	7 百万NTドル	100.0	2,074	614	フッ素系製品の販売

合計	11,299	1,783
----	--------	-------

関東電化工業株式会社

4

連結決算のポイント

(単位:億円)

	H26/9	H27/9	差額
売上高	180	208	27
営業利益	12	38	26
純利益※	11	30	18

※親会社株主に帰属する四半期純利益

(1) 売上高増加 (+27億円)

- ・基礎化学品事業部門は、ほぼ前年同期並(△1億円)
- ・精密化学品事業部門は、販売数量の増加と価格修正効果により増加(+30億円)
- ・鉄系事業(△0.9億円)、商事事業(+0.8億円)、設備事業(△0.8億円)

(2) 営業利益改善 (+26億円)

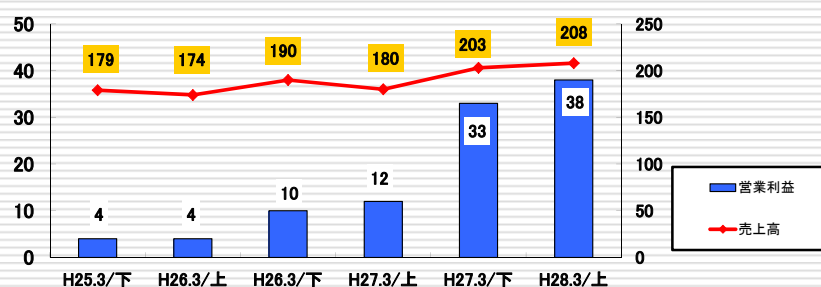
- ・固定費は増加したものの、販売数量の増加と価格修正効果により改善
- 基礎化学品事業部門(+0.9億円)
- 精密化学品事業部門(+24億円)
- 鉄系事業(0.2億円)、商事事業(△0億円)、設備事業(0.1億円)

5

過去3年間の半期業績の推移

(単位:億円)

	H25年3月期		H26年3月期		H27年3月期		H28年3月期
	下期	上期	下期	上期	下期	上期	
売上高	179	174	190	180	203	208	
営業利益	4	4	10	12	33	38	



関東電化工業株式会社

6

基礎化学品事業部門

(単位:億円)

	H26/9	H27/9	差額
売上高	32	31	△1
営業利益	△1	△0	0.9

- ・売上高は、か性ソーダおよび塩酸は販売数量の減少と販売価格の低下により減収となった。トリクロールエチレンは販売数量の増加と価格修正効果により増収、パークロールエチレンは販売数量の増加により増収となった。全体では前年同期に比べ微減となった。
- ・営業損益は、売上高は減収となったものの、原燃料価格の下落により、前年同期に比べ赤字幅が縮小した。

関東電化工業株式会社

7

精密化学品事業部門

(単位:億円)

	H26/9	H27/9	差額
売上高	114	144	30
営業利益	10	35	24

- ・三フッ化窒素および六フッ化タングステンは、販売数量の増加と価格修正効果により、前年同期に比べ増収となった。
- ・電池材料の六フッ化リン酸リチウムは、販売価格は下落したものの販売数量が増加したため、前年同期に比べ増収となった。
- ・営業利益は、フッ素系特殊ガスの販売数量増加と価格修正効果により、前年同期に比べ増益となった。

関東電化工業株式会社

8

鉄系・商事・設備事業部門

(単位:億円)

	H26/9	H27/9	差額
売上高	33	32	△1
営業利益	3	3	0.2

【鉄系事業】

売上高は、鉄酸化物の販売数量が減少したため減収となった。営業利益は、キャリアの新規製品への切り替えが進んだため増益となった。

【商事事業】

連結子会社である関電興産の化学工業薬品の販売が増加したことにより増収となった。営業利益は、固定費が増加したため前年同期並みとなった。

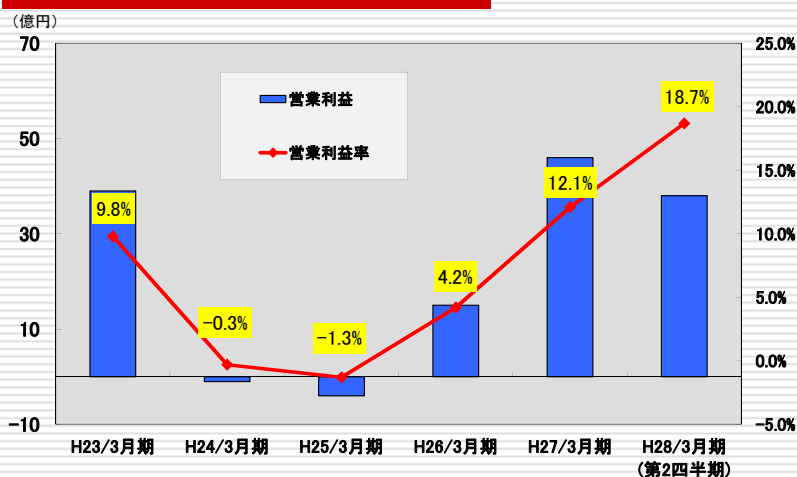
【設備事業】

売上高は、連結子会社である上備製作所における請負工事の減少により減収となった。営業利益は利益率が改善したため増益となった。

関東電化工業株式会社

9

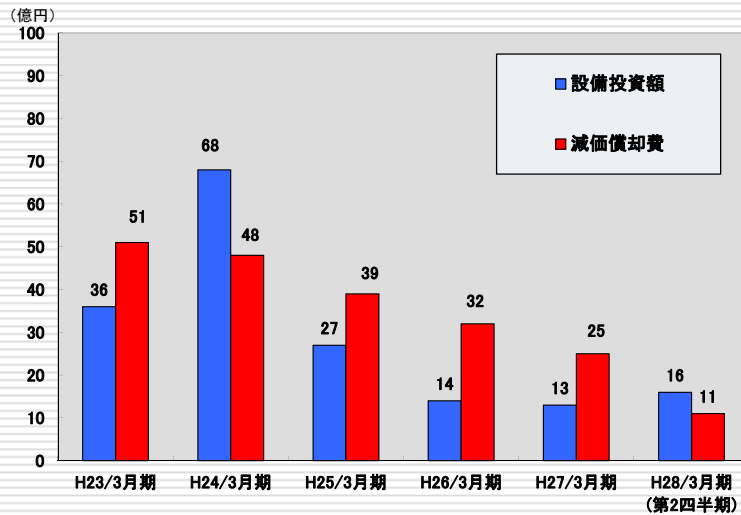
営業利益と営業利益率の推移(連結)



関東電化工業株式会社

10

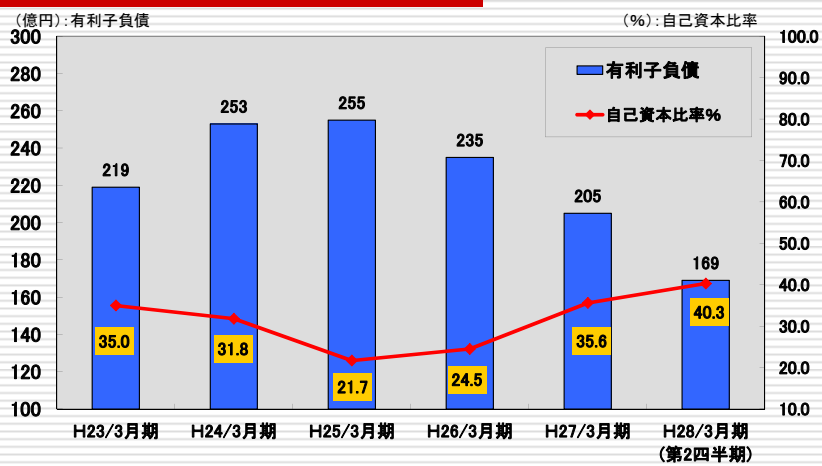
設備投資・減価償却費の推移(連結)



関東電化工業株式会社

11

有利子負債・自己資本比率の推移(連結)



(注) H25/3月期以降はリース債務を含む

関東電化工業株式会社

12

説明内容

1. H28/3月期第2四半期決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向

※増減率を除き、表示単位未満は切り捨てて表示

セグメント別業績予想(連結)

(単位:億円)

	売上高			営業利益		
	H27/3 実績	H28/3 当初見込	修正後 見込	H27/3 実績	H28/3 当初見込	修正後 見込
基礎	69	69	66	0	4	2
精密	243	292	302	38	51	70
その他※	70	74	72	6	5	6
合計	383	435	440	46	60	78
設備投資	13	38	38	※その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。 ※為替レート見込:115円/\$		
減価償却	25	26	25			
研究開発費	10	11	11			

セグメント別業績(連結) 上期当初予想と実績の差

(単位: 億円)

	売上高			営業利益		
	上期 当初見込	上期 実績	上期 差額	上期 当初見込	上期 実績	上期 差額
基礎	33	31	△1	1.5	△0	△1
精密	145	144	△0	22	35	13
その他※	35	32	△2	2.5	3	0
合計	213	208	△4	26	38	12

※その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

関東電化工業株式会社

15

セグメント別業績予想(連結) 下期当初予想との差

(単位: 億円)

	売上高			営業利益		
	下期 当初見込	下期 見直し	下期 差額	下期 当初見込	下期 見直し	下期 差額
基礎	36	34	△1	2.5	2	△0
精密	147	157	10	29	34	4
その他※	39	39	0	2.5	2	0
合計	222	231	9	34	39	5

※その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

関東電化工業株式会社

16

セグメント別業績予想(連結) 上期下期比較

(単位:億円)

	H28/3売上高			H28/3営業利益		
	上期実績	下期見直し	差額	上期実績	下期見直し	差額
基礎	31	34	2	△0	2	2
精密	144	157	13	35	33	△1
その他※	32	39	7	3	2	△0
合計	208	231	23	38	39	0

設備投資	16	21	5
減価償却	11	13	1
研究開発費	5	5	0

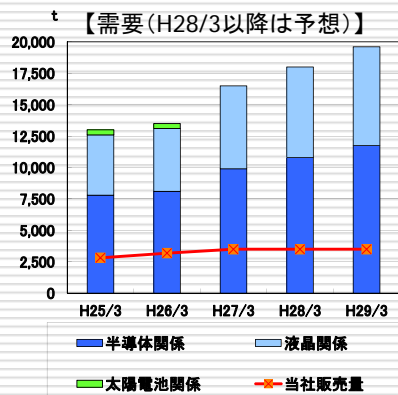
※その他は、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

関東電化工業株式会社

17

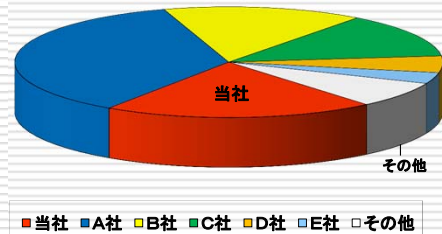
—主な製品の見通し— 三フッ化窒素(NF3)

- 半導体・液晶製造プラズマCVD装置のチャンパークリーニングガス。
- 製造能力 3,500t/年



【現在のシェア予想】

当社シェアは約2割



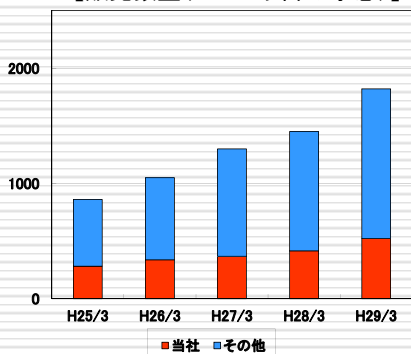
関東電化工業株式会社

18

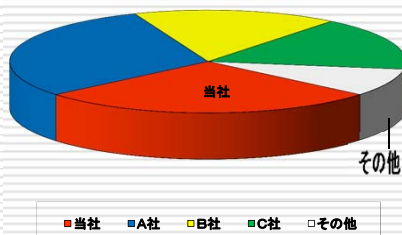
ー主な製品の見通しー六フッ化タンゲステン(WF6)

- 半導体用配線材料ガス。
- 製造能力は300t/年。増設(能力倍増)を決定。

† 【販売数量(H28/3以降は予想)】



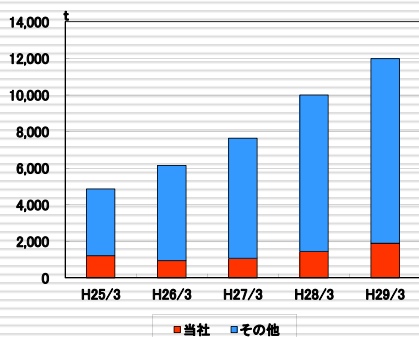
【現在のシェア予想】
当社シェアは約3割



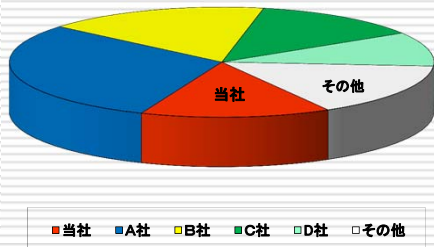
ー主な製品の見通しー六フッ化リン酸リチウム(LiPF6)

- リチウムイオン二次電池の材料である電解質。
- EV等の車載向けの需要が本格化。
- 製造能力は2,400t/年。

【販売数量(H28/3以降は予想)】

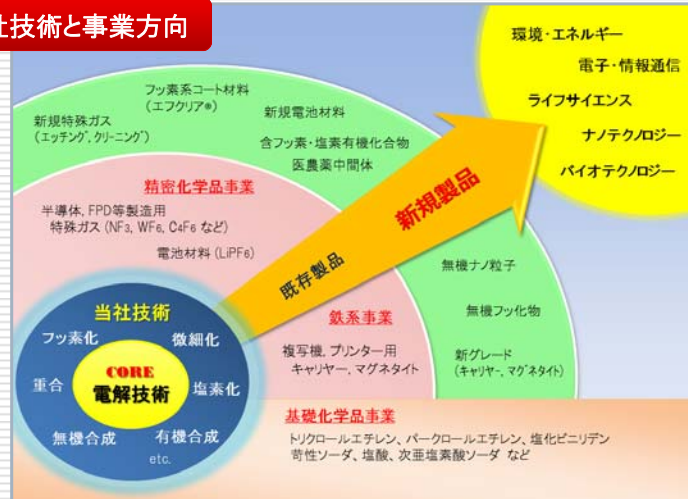


【現在のシェア予想】
当社シェアは1割台半ば



創造的開発型企业へ

当社技術と事業方向

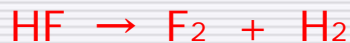


関東電化工業株式会社

21

フッ素化技術を利用した製品の開発①

当社コア技術
HF電解



世界有数の規模と高品質のF₂

HF電解技術を極め、次世代製品の開発促進

F₂を利用した既存製品

特殊ガス

- ・NF₃
- ・SF₆
- ・WF₆
- ・CF₄
- ・ClF₃
- ・C₄F₆
- ・C₄F₈
- etc.

電池材料

- ・LiPF₆

その他

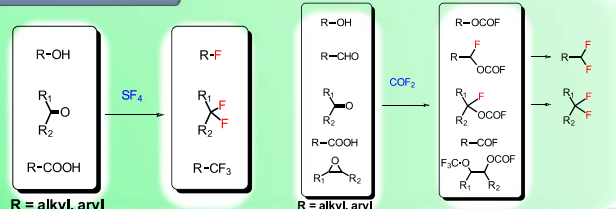
- ・IF₅

関東電化工業株式会社

22

フッ素化技術を利用した製品の開発②

フッ素化反応例



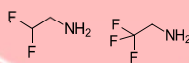
フッ素化技術を中心に、蓄積されたハロゲン化技術を利用して受託合成などを承っています。

特徴

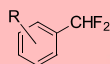
F₂による直接フッ素化反応、SF₄などの特殊フッ素化試薬を用いた反応などで実施可能

含フッ素有機化合物 開発品例

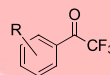
フルオロエチルアミン類



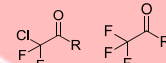
ジフルオロメチルベンゼン類



トリフルオロアセトフェノン類



ハロゲン化アセチル類



etc.

関東電化工業株式会社

23

注意事項

- 本資料は、金融商品取引法等のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なります。

関東電化工業株式会社

24